

産卵用ケージのケージ床

養鶏試験場 上野 満 弘

**一、ケージ床の傾斜および
目の幅と卵の転がりの
関係**

はじめに
本誌の昨年一〇月号「採卵鶏ケージの規格について」の記事の中で、ケージ床傾斜が急になる程、破卵発生率が高くなることを述べているが、現在一般に使用されているケージ床傾斜は約七度であり、この場合でもかなりの頻度で卵のケージ内での停滞がみられる。
放卵後の卵のケージ内での停滞は、汚卵や破卵の原因になるし、集卵作業の間、集卵残しのための品質低下になるため、ケージ床傾斜はあまり緩くすることはできない。本稿では、ケージ床傾斜の角度やケージ床面の目の幅と卵の転がりの関係、およびケージ床の材質と産卵や破卵の関係について記す。

表1は農林水産省畜産試験場で調査した成績であり、放卵から卵が卵受けの部位に転がり落ちるまでの時間である。放卵直後に転がり落ちた割合は、床面の目の幅を細かくすること、および、角度を急にすることによって有意に転がり易くなっている。一時間以上ケージ内に停滞する卵の割合はケージ床傾斜が六・八度では平均八・六%になっている。
なお、表1の成績は一つのケージに一羽の鶏を収容した時の成績であり、ケ-

表1-2 放卵後・60分間以上
ケージ内に停滞した卵の割合(%)
(農林水産省・畜試)

目の幅 角度	10 mm	14	20	24	平均
6.8 度	8.7	3.7	16.7	6.7	8.6
8.6	0	3.7	14.3	0	3.9
10.0	5.3	5.0	5.0	0	
11.8	0	0	0	0	0

表1-1 放卵直後に卵受けに
転がり落ちる割合(%)
(農林水産省・畜試)

目の幅 角度	10 mm	14	20	24
6.8 度	39.1	33.3	41.7	33.3
8.6	46.2	44.4	28.6	46.4
10.0	73.7	40.0	50.0	29.2
11.8	82.6	53.3	42.9	41.2

二月号目次	
養鶏特集号	1
①産卵用ケージのケージ床	1
養鶏試験場 上野満弘	
②ポロイチェク卵について	4
養鶏試験場 上林峯治	
③「EDS-76」の発生と	6
その病原体について	
養鶏試験場 花尾貞明	
普及所便り	8
安定した自主経営	
井笠農業改良普及所	
80年代農政に物申す	9
牧野 勉	
今日のニュース	10
飼料情勢 県酪連	12
振興局便り	14
阿新地方の産産概要について	
阿新地方振興局	
私の趣味	16
ブルーグラスと私	
和牛試験場 山本 洋	

飼料添加物
高単位ビタミンAD₃E剤

NZK

日本全薬工業株式会社
郡山市安積町笹川字平の上1-1

(有)美津和薬品商会

本社 〒708 津山市井ノ口25 卸売センター内
TEL (08682) 2-7 0 1 4

Dawes' ドウズADEE

成分

本品1g中

- ビタミンA油.....50,000 I.U. (ビタミンAとして)
- コレカルシフェロール..... 5,000 I.U. (ビタミンD₃として)
- 酢酸トコフェロール..... 20 I.U. (ビタミンEとして)
- プロピオン酸ナトリウム..... 3mg

特長

- 1) ビタミンA・D・Eの粒子はそれぞれ特殊コーティングされているために、濃厚飼料に混合しても安定性がよく、しかも保存性に優れています。
- 2) 含有ビタミンは微粒子で、体内(腸管)吸収は速やかにおこなわれます。又、製品は均一になるよう製造されています。
- 3) 基剤は小麦粉使用のため嗜好性が良く、濃厚飼料に容易に混合できます。

〔ゼンヤクの固型塩グループ〕

〈一般用〉 〈グラステクニー様疾患予防用〉
グリーン鈣塩 **鈣塩EM**

〈肥育牛の尿結石症予防用〉
固型カウストン

ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤

バイミルク

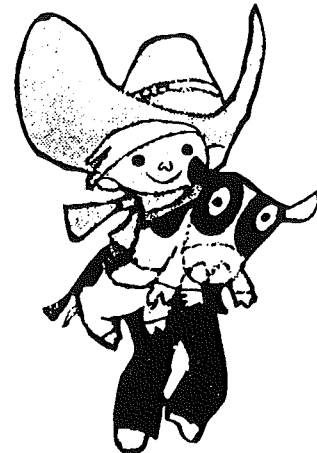


表6 ケージ床の材質と破卵の発生率

(茨城県養鶏試) (%)		
材質	ビニールコーティング	亜鉛メッキ
週齢		
20 ~ 39	0.5	0.7
40 ~ 59	0.5	1.3
60 ~ 79	1.5	5.2
20 ~ 79	0.8	2.3

表5 ケージ床の材質と生産性 (茨城県養鶏試)

材質	ビニールコーティング	亜鉛メッキ
調査項目		
産卵率 (%)	79.4	77.8
卵重 (g)	58.7	58.7
産卵日量 (g)	46.6	45.7
飼料摂取量 (g/日)	108.5	109.5
飼料要求率	2.22	2.32

(注) 20週齢から79週齢までの成績

表2 ケージ床の角度と生産性

(茨城県養鶏試)			
角度	3度	6度	9度
調査項目			
産卵率 (%)	81.4	78.3	80.1
卵重 (g)	63.4	63.5	63.6
産卵日量 (g)	49.9	48.0	49.3
飼料摂取量 (g/日)	112.1	110.2	111.4
飼料要求率	2.25	2.30	2.26

(注) 20週齢から79週齢までの成績。

表2はケージ床の角度と産卵、飼料摂取量および飼料要求率の関係を示したものであるが、角度と生産性の間には特別の傾向はないようである。

二、ケージ床の傾斜と生産性の関係

ケージ床の目の幅および角度の影響は産卵率にはあらわれておらず、また、軟卵や破卵の発生状況も特別の差異は認められないとしているが、ケージ床傾斜が一〇度以上になると、卵がケージの卵受けの部位を乗り越えて床に落下したケースが観察されたとしている。

ケージ床の目の幅を細くすることによって卵の転がりはよくなるが報告されているが、目の幅を細くすればケージ内に鶏糞が堆積しやすくなることは明らかであるから、目の幅は二四mm程度が適当であろう。

表3 破卵の発生率 (茨城県養鶏試) (%)

角度	0	3	6	9	12
週齢					
20 ~ 39	0.7	0.7	0.5	0.6	1.7
40 ~ 59	1.5	0.9	0.9	0.9	3.2
60 ~ 79	4.0	3.3	3.7	3.4	6.9
20 ~ 79	2.0	1.6	1.6	1.6	3.9

本誌の昨年一〇月号でも茨城県養鶏試の成績を紹介したが、同場がその後報告したものには表3の成績のようにケージ床の角度六度と九度では破卵発生率に差がなかったとしたものもある。

したがって、ケージを実際設置する場合は、破卵率の減少や集卵作業の手間などを考慮して、自動集卵を行う場合は七から九度、手集卵の場合は六から七度のケージ床角度に取り付けるのがよいのではなかろうか。ケージ床角度が一〇度を越す例は、自動集卵を行っていない一部の

三、ケージ床の傾斜と破卵の関係

養鶏場には見受けられるが、表3のように九度と一二度の比較では一二度の破卵が明らかに多くなっている。

四、放卵時の鶏の姿勢

産卵時点の破損は破損部位から見て、放卵時の卵の落下衝撃と卵が卵受部まで移動するときの衝撃によっておきると考えられるが、通常のケージでは給餌器の方向にケージ床は下り坂になっているため、鶏が給餌器の方向に頭を向けた状態で放卵する場合は卵の落下距離が短かくなって落下衝撃は小さくなる。しかし、卵の転がる距離は長くなって移動衝撃は大きくなる。したがって、もしも鶏がケージ床の下り坂に向かって放卵してくるならば、ケージ床の奥行を短かくすることによって移動衝撃を少なくすることができ、放卵時の鶏の姿勢は表4のようにまちまちのようである。

移動時の衝撃を少なくするためには、卵受けの部位にロープを張っている養鶏家があるが、ケージ床傾斜が急な場合には有効のようである。

五、ケージ床の材質

ケージ床の材質は、ほとんどの養鶏家が亜鉛メッキ処理したものを使用しているが、最近ではビニールコーティングをしたものを使用している養鶏家がある。表5には生産性の成績を、表6には破卵の発生率を示した。

表4 放卵時の鶏の方向 (農林水産省・畜試) (%)

ケージ床目の幅	方向							
	10mm		14		20		24	
角度	後	前	後	前	後	前	後	前
6.8度	4.0	6.0	5.0	5.0	3.6	6.3	5.0	5.0
8.6	4.3	5.6	6.3	3.6	5.2	4.7	5.2	4.7
10.0	5.3	4.6	7.0	2.9	3.5	6.4	6.3	3.6
11.8	8.5	1.4	6.4	3.5	4.2	5.7	7.2	2.7

(注) 後とはケージ床の上り坂に向いて放卵した鶏。前とはケージ床の下り坂に向いて放卵した鶏。

産卵率と飼料要求率については、ケージ床をビニールコーティングしたものがすくなく、産卵日量も有意に多かったと報告している。

破卵については、ビニールコーティングしたものが、どの週齢でも少く、全期間では亜鉛メッキしたケージ床の三分の一であった。

おわりに

産卵用ケージのケージ床の構造、傾斜の角度および材質と生産性や破卵の関係などについて記したが、破卵の原因は、栄養や鶏種、鶏の年齢、環境温度、湿度、ケージあたりの羽数、集卵の方法、輸送法など多くの要因が関与している。ケージ床の改善によって破卵が少くなり、集卵作業が容易になれば幸いである。

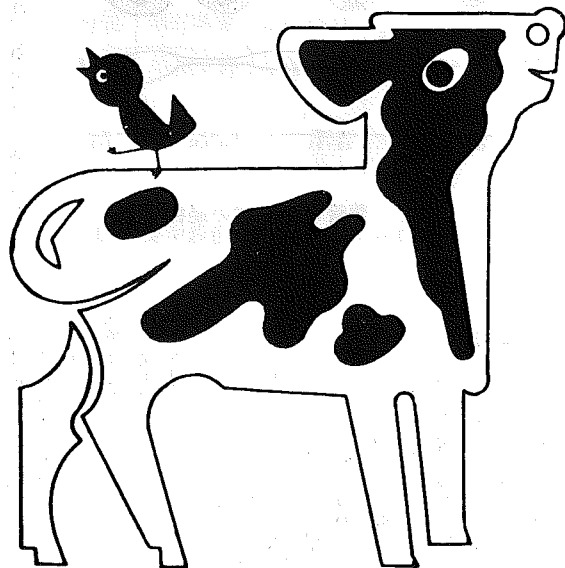
乳は国産 エサは全酪

団結は力！
系統利用は団結の象徴

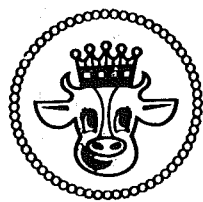
最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系
(乳牛の飼料は専門の全酪連におまかせ下さい)

主要取扱品目

専管、増産ふすま。外国大麦飼料。
カーフトップ。脱粉飼料。カーフスターター。
幼牛用、搾乳用配合飼料。
その他酪農用飼料資材全般。
市乳、バター、チーズ、練乳、粉乳。



日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協！
全国酪農業協同組合連合会



養鶏特集

②

ボディチェック卵について

養鶏試験場 上林 峯 治

◇ボディチェック卵とは

ボディチェック卵(Body Check Egg)は、卵が産卵される前、すなわち鶏の体内において、卵殻が形成されつつある時に卵殻にひびが入った卵(図1)のことで、時には破損部分にカルシウムが沈着して隆起した卵も見つけられる。また、ボディチェック卵はボディチェックス(Body Check)とも呼ばれる。

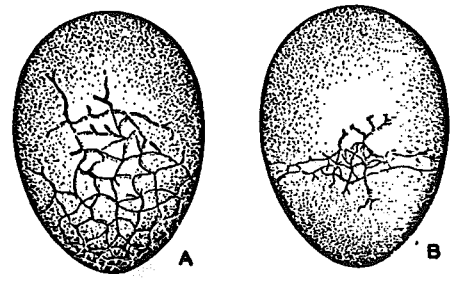


図1 ボディチェック卵 (A: 鋭端部, B: 赤道部)

◇ボディチェック卵は どうして発生するのか

ボディチェック卵の発生について考える前に、鶏の体内における卵の形成過程についてよく理解する必要がある。肝臓で合成された卵黄の成分は、血液によって卵巣へ運ばれ、これが蓄積されて卵黄ができる。この卵黄は排卵されて卵管に取り入れられ、ろう斗部に入り卵管のぜん動運動により膨大部に送られる。この部分で卵黄の周囲に卵白が付着されたのち、峽部に入り内外二層の卵殻膜が形成される。さらにこれが、卵殻腺部(子宮部)に入り卵殻が形成される。この間(排卵から産卵まで)の各部の通過時間は、図2に示すとおりで、卵殻が形成される卵殻腺部には一八〜二〇時間停滞する。また、産卵時刻とボディチェック卵の発生割合を調査した結果では、表1に示すとおり午前六時から午前八時の間が最も多くなっている。(但し、この調査は開放鶏舎で行われたもので、点灯は午前

表1 産卵時刻とボディチェック卵の発生割合

産卵時刻	月 齢		8		11		14	
	月	日	発生割合	アルファベット	発生割合	アルファベット	発生割合	アルファベット
18	6	18	0	a	5.5	b	15.6	b
6	8	18	4	ba	13.4	aba	32.7	bac
8	10	18	0	aaa	6.8	bbb	6.5	ccc
10	12	18	6	aaa	2.6	bbb	2.0	ccc
12	14	18	0	aaa	1.4	bbb	0	ccc
14	16	18	0	aaa	0	bbb	1.8	ccc
16	18	18	1.6	ab	0	bbb	0	ccc

注) 右肩アルファベットは異文字間に5%水準で有意差あり。

鶏の日齢が進むにつれて卵重は重くなるが、卵殻は薄くなることと関係があることが推察される。さらに、表3に示すとおり収容密度が高い程、ボディチェック卵の発生率は増える傾向がある。これは収容密度が高い程、鶏同士が競合する機会が多くなり、ストレスが増加することも原因の一つではないかと考えられる。

◇ボディチェック卵の発生を少なくするには

ボディチェック卵の発生割合は、これまで述べてきたような条件、すなわち点灯時間の長短、収容密度及び鶏の日齢などにより異なることからみて、ボディチ

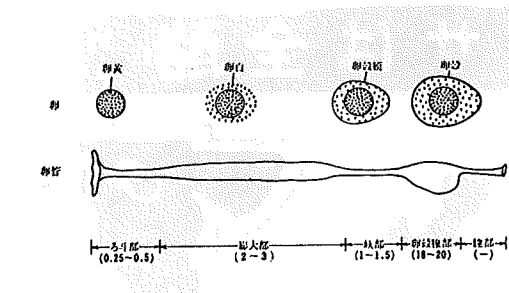


図2 卵管と卵形成の過程 (カッコ内の数字は通過所要時間)

二時、消灯は午後八時である。)ここで、午前八時に産卵された卵の卵殻形成時刻について考えてみると、排卵から産卵までの所要時間がおよそ二四時間とすると、この卵の卵黄が排卵されたのは前日の午前八時頃と推定される。これが、卵殻腺部に到達するのは図2の通過時間からみて、排卵から約四時間後の正午頃となる。この頃から卵殻膜の上にカルシウムの沈着が始まるが、最初の四時間前後はゆっくりと行われ、その後はクチクラが形成されるまで、かなり速い割合でカルシウムの沈着が進行する。しかし、まだその卵殻は薄くてもろく、この卵殻が十分固まっていない時期に、鶏を驚かせたり、あるいは乱暴な取扱いをすると卵殻にひびが入り、これが産卵されていわゆるボディチェック卵となる。このひびが入りやすい時間帯すなわち午後四時前後(卵が卵殻腺部に到達してからおよそ四時間後)以降が、ボディチェック卵の発生を少なくする上から重要な時期である。

◇ボディチェック卵は どのような管理条件の時に多く発生するのか

前述のように卵殻形成の過程の中で、注意を要する時間帯に、鶏が活動している状態ではボディチェック卵の発生が多くなる。表2に示した実験は点灯時間の変更とボディチェック卵の発生率の関係を調べたもので、点灯時間を午前四時から午後八時までとしたときは、ボディチェック卵の発生率は七・七%であった。しかし、点灯時間を三時間延長して午後一時までにしたら、発生率が一八・三%と倍以上に増加した。つきに、これを再び午後八時消灯に戻したら五・八%に減少した。さらに消灯時刻を二時間早くして、午後六時に消灯したら一%の発生率に減少した。このことは、点灯時間の長短とボディチェック卵の発生率とが、密接に関係していることを示唆している。また、ボディチェック卵の発生は鶏の日齢が進むにしたがって多くなる傾向が見られる(表1)。このことは、一般に

表2 点灯時間とボディチェック卵の発生率

点灯時間	点灯時刻	消灯時刻	ボディチェック卵発生率
16	午前4時	午後8時	7.7%
19	"	11	18.3
16	"	8	5.8
14	"	6	1.0

表3 収容密度とボディチェック卵の発生率(%)

産卵時間帯	1ケージ当りの収容羽数		
	4羽	3羽	2羽
6時 ~ 7時30分	33.8	14.9	8.3
7時30分 ~ 10時	18.0	7.0	0

注) : ケージの寸法は 30.5 cm x 45.7 cm

牛の健康、緑の牧草は
タンカル で良い草を!

効めの早い 持続性のある
タンカル肥料 土改1号, 2号

足立石灰工業株式会社
岡山県新見市足立 TEL (08679) 5-7111

「EDS-76」の発生とその病原体について

養鶏試験場 花尾 貞明

昭和五十五年秋全全国鶏病技術検討会(岡山県大会)が一月五日、岡山市古京町岡山衛生会館で全国の鶏病研究会(東京都渋谷区代々木、酪農会館ビル)の会員及び養鶏関係者三百余名の参加により開催された。テーマは「生産性低下に關連する二・三の要因」で、五題の研究発表があった。参加者の日頃の研究も紹介され、質疑応答も活発で多方面での活躍がうかがえた。そのうちで最近話題となっている、産卵低下症候群についての発表内容をここでお伝えします。

一、発生状況

日本で発生した二件の産卵低下疾病を本病と診断し、その結果が報告された。平飼いのブロイラー種鶏場で、一九七八年十二月(翌年五月(農場I))と一九七九年八月(翌年一月(農場II))に発生している。

農場Iでは十四群中九群が六ヶ月間から次々と発生した。そのうち二群は英国から輸入されたものであったが、初発群ではない。発生は三〇〜五五週間でさまざまに、発症期間は三〜七週間であった。産卵率は予想産卵率よりも六〜十七%低下し、発症期間中には無産卵、薄産卵及び褐色の卵が白色になった退色卵などの、異常卵が多数産出された。

農場IIでは五群に発症を認め、三二週齢〜三八週齢で発症し始め、一過性に産卵率が二〇〜二五%低下し、四〜五週間で回復した。異常卵の産出状況は農場Iと類似しており、一つの群では産卵数の十九%が異常であった。

卵黄のHI抗体は接種後十四日から出現し始めた。鶏アデノウイルスの寒天ゲル内沈降抗体は接種前陰性であったものが接種十四日で陽転を認め、三二日には全羽数が陽性を示した。未接種群は全て陰性を経過した。

二、抗体検査

抗体検査は各群一回当り、五〜十羽の血清を採取して行ない、抗原は本病の代表株であるBC14株を用いた。血球凝集抑制(HI)反応の結果は、農場Iでは発生前0/44、五群の発生後57/67で、農場IIでも抗体保有率は産卵低下と密接に關係して上昇した。

鶏アデノウイルスを鶏に感染させると抗体が出現するが、しばらくして消失してくる。この時点でEDS-76ウイルスに感染させると、鶏アデノウイルスの抗体がリコールされ、再び検出されるようになることされている。その抗体保有率でも発生前10/44が、発生後は49/57と有意に上昇している。

三、ウイルス分離

農場Iでは鶏アデノウイルス一株のみが分離され、本病ウイルスは分離されていない。農場IIでは卵管から一株と直腸スワブ一四六例から十株の血球凝集を有するウイルスが分離され、BC14株で作成した蛍光抗体と反応して、核内に特異的な抗原を認めた。

四、分離ウイルスの性状

分離ウイルスはEDS-76ウイルスであるBC14株と同一の抗原性を示し、鶏アデノウイルスと交差反応を示さなかった培養細胞では鶏腎細胞より鶏胎肝細胞

五、分離ウイルスの産卵鶏に對する病原性

二〇日齢の褐色卵を産出する産卵鶏三二羽の内一六羽に経口接種した。接種後八日から発症し、十二日までに十三羽が発症、八〇日まででは十五羽が発症した。その症状は下痢を、異常卵(卵殻のないもの、薄いもの、退色したもの、破損卵)を産出する以外は明らか症状を示さず、また、異常卵の卵黄と卵白は肉眼的には正常であった。発症期間は短い例で四日、長い例で七日以上で、無産卵になった例はなかった。産卵率は未接種群(対照)は九四%以上であったが、接種群では接種後十二〜十六日で五〇%に低下、その後すぐに九〇%以上に回復した。しかし、異常卵が多く、それを除外すると最低一七%であり、六〇日で四二%、八〇日で六七%となり、接種後一〜三週では異常卵の半数以上が卵殻がないものや、薄いため割れてケージから落ちていた。

六、分離ウイルスの体内分布

二七三日齢の産卵鶏に分離ウイルスを経口接種すると、発症は十一日後より始まったが、臓器のウイルスは接種後三日から認められ始め、一〇日以降では消失した。凍結切片での蛍光抗原は、接種後一〇日及び十四日で卵管子宮部と、十四日の峽部に認められただけで、主として卵管の粘膜上皮に認められた。

七、病理変化

野外発生例では肉眼的変化は乏しく、ウイルス分離された例では、子宮部の木葉状膜の腫大が観察された。組織変化は卵管で認められ、子宮部上皮は著しい変性、多数の上皮細胞内に核内封入体、リソソーム及び偽好酸球の浸潤、腔内にはカルシウムより或る異常分泌物も観察された。

八、日本におけるEDS-76の発生の問題点

本病は水平感染が難しいこと、本病ウイルスは本来アヒルのウイルスで、ワクチンに混入していたため鶏に感染し、介卵感染で伝播するのであると推察されていた。日本での発生の場合、どこからウイルスが侵入し、どのように伝播したかは不明であるが、一九七七年以前には発生が確認されておらず、また、発生農場が限られていることから、海外からウイルス保有鶏が導入され、その農場で流

九、EDS-76の発生と養鶏試験場

分産ウイルス接種鶏は接種後十四日の発症中のもので子宮部の膜が水腫性に腫大、腔内に分泌物の増量や白色の絮状物や、黄色の糸状物が観察された。また、成熟卵胞の軟卵胞化も認められた。組織学的には接種後一〇日、子宮部の上皮細胞に好塩基性の核内封入体が見られ、接種後十四日では子宮部の上皮細胞の変性剥離が著しく、病理変化も多く認められた。二一日以降では子宮部の上皮細胞は正常に回復し、固有層及び下織にリンパ濾胞が形成されていた。

十、EDS-76の発生と養鶏試験場

電子顕微鏡で接種後十四日の子宮部を観察すると、核内封入体の多くは非纖毛上皮細胞に認められ、核は著しく不整形を示し、核内にウイルス粒子が散在し、また、崩壊した細胞の細胞質内にも多数認められた。

表1 病性鑑定保存血清でのEDS-76

年度	検査数	陽性数(%)	凝陽性※
1972	2	0	
1973	10	0	
1974	12	0	
1975	18	0	2
1976	59	1(1.7)	3
1977	103	15(14.6)	5
1978	220	13(5.9)	5
1979	321	26(8.1)	0

※凝陽性は弱い沈降線が48時間以後に出現したもの
検査数等は個体サンプルであるが、同一鶏群でプールしたものもある。なお、陽性例の大部分は産卵の異常が認められている。

病鑑だより No.5 (1980)

安定した自主経営

(笠岡市走出養鶏A B団地)

井笠農業改良普及所 田中 孝

一、はじめに

笠岡市は昔から、岡山県の養鶏主産地の一つとなっている。大正の始めから、農家の副業として、盛んに飼育されて来たが、急速に発展したのは、戦後である。戦後の混乱からさめ、経済的に安定が見え出した昭和三十五年には、一〇万羽、一戸平均二羽が飼育されていた。それが二十年後の昭和五十五年には、六六二、一〇〇羽(統調調べ)、一戸当り三、〇三九羽となっている。その間、オイルショック一回、それにもなう飼料の高騰更に生産調整などにより、制限を受けたが、二十年間に羽数が六・六倍、一戸当りの飼育規模で一五四倍となった。

市の農業粗生産額でみると、農産物総売上の半分以上は常に鶏卵で占めている。昨年は、全国的な冷夏、長雨により、農業全体に大きな災害を受けた。しかし鶏卵だけは好調に推移し、年平均卵価はM基準三〇〇円少々であった。

二、養鶏団地造成の動機

日本経済の高度成長にともない、昭和四十年の前期から、農業と他産業との所得格差が大きくなり出した。他産業並の農業所得を得るには、養鶏農家も、規模の拡大、労働生産性向上という方法で対応しなくてはならなかった。その結果として、環境汚染とそれにとまなう、公害苦情が急速に問題となって、地区住民、

養鶏農家ともに苦しみ、感情的に対立する場面もみられた。これに対する対応策として、公害の出ない適地を求めて、移転し、省力化・機械化による労働生産性向上と、併せて経営の安定を計ろうという方針が関係者間で決定した。

三、団地移転への誘導

昭和四十七年、普及計画に取り上げ、市・農協・関係機関と連携を取りながら、推進を計った。環境汚染が心配なく、しかも恵まれた立地条件のところは、なかなかない。適地であっても、土地所有権、住民の反対などで、たびたび変向せざるを得なかった。市・農協・関係者などと共に、地区住民に了解を得るため、何夜も出向いて話し合いが行なわれた。四十八年後半に至り、ようやく地元の了解が得られた。

四、養鶏団地造成

昭和四十八年・五〇年に兩年にわたり実施された。

市有林を中心に、民有地を買収して、走出地区に、A B団地を造成した。基盤については、補助金五〇％で市が事業主体となった。鶏舎施設については、競馬益金で補助を受け、農協が事業主体となつて行なわれた。

参加農家戸数は五戸、一戸平均二万羽の自主経営である。年齢は、全員四十歳台の働き盛りである。

五、経営について

団地が完成し、五ヶ年が過ぎた。五戸の農家の内、三戸は経済連が経営を毎月コンピューターで処理しておられる。内容については優秀な成績である。農家の依頼で、内容については、公表して呉れなると云う事なので、五十四年度の技術係数だけでお許し願いたい。

一羽当り施設費	一、六二七円
成鶏飼料費	二、二二八円
一羽当り衛生費	一五円
年間償却費	一五六円
卵当り生産原価	一九九円
販売単価	二四九円
飼料要求率	二・二五
粗収入	四、二九八円
労働一人当り成鶏飼育羽数	五、四四八羽
生存率	九二・二％
更新率	七六・六％
日卵重	五〇・八g
育成率	九六・八七％
飼料年間消費一羽	四一・七kg

全員が目的とする、他産業以上の収益を得ている。

これについて実施された、県営畜産経営環境整備事業も近いうちに、安定経営に入るものと考えられる。

80年代農政に物申す

建 白 書

農政審議会の答申を不満として、邑久郡長船町の酪農家、牧野勉氏(朝日農業賞、日本農業賞、農林水産祭天皇賞受賞)は、農協中央会―全国農協中央会を通して国に対し、現状を正しく認識した上で将来に備える政策推進がなされるよう、建白書を提出した。

昨年十月三十一日、政府は農政審議会から「昭和六十五年の農産物の需要と生産の長期見通し」と「八〇年代の農政の基本方向」について答申を得て、それを基に具体的な政策をたて、農政推進を図るものとしての期待に反する答申がなされている部分があり、八〇年代の農林業を憂慮して今回の建白書となった。

以下に、その全文を掲載する。

一、米の過剰基調、総合食糧の自給率の低さ等から、水田再編対策による転作の強化は理解できるが、転作定着化への施策強化が打ちだされていない。したがって転作の強化は休耕田の増加を招くことになり、巨視的には農用地資源の利用率を低下させ、狭視的には農家所得の減少につながり、農家、農業、農村の暗さを増すことになる。

そこで転作の強化に見合う転作条件整備施策を強力に推進するよう措置し、農村に少しでも明るさを与え、担い手農家

の確保を図ってほしい。

二、総合食糧の自給率向上は国際的な見地、とくに一九九〇年代の食糧危機がいろいろに言われる中であって、直視しなければならぬことであるが、六十五年を見通した穀物自給率はむしろ低率の三〇％としていることは、自給率の低い穀物などの積極的増産を意図していないのではないかと疑念を抱くし、前項で述べた転作物の定着化についても積極的施策がとられるのかどうかについても疑念を持たざるを得ない。転作条件が整わない多くの水田をそのまま利用して、「エサ米」を作ること、飼料用穀類の輸入依存を低め畜産経営安定化につながるし、一朝有事の際は直ちに食糧米生産に切り換えることができるなど水田利用再編が画のように進まないまま、まさに適切な転作々物であると考えられる。しかるに「エサ米」を転作々物とすることは時期尚早として退けられたが、あまりにも国民を信頼しないものと考え方に立った判断といわざるを得ない。信頼される農政は生産農民、消費者を含めた国民を信頼することが何よりの要件であろうと考える。

今回の答申では退けられたものの、何れは水田利用再編からんでやがて登場するものであるから昭和五十六年度からの具体的施策をしくまれる中で、国等の行政施策、試験研究、全中、全農等の事業、農業者の実証などが統一的にから

まって議論や研究が深められ国家的な合意形成が促進されるよう次のことを提言する。

- (1) 農水省農試、及び同地域農試が中心となり、都道府県農試等と連携のものとして、「エサ米」の育苗、栽培試験、加工利用(給与)試験、経済性調査などを昭和五十六年度から本格着手する。
- (2) 農業団体と農業者が一体となって、各県毎に「エサ米」栽培利用実証事業(規模はおおむね一〇ヘクタール程度)を実施し、地域毎の栽培実証とそれら生産物の利用実証を行なうこと。とくに利用実証については、各都道府県農業団体が一括集荷し、系統工場において処理加工したものを生産地域の畜産農家に還元して、利用効果を確かさせること。
- (3) 農水省は当面上記事業による「エサ米」生産を転作々物と特認し、その成果を動察して、できるだけ速やかに特定作物として認定するよう努力すること。
- (4) 国県等の技術行政、試験研究機関は(1)のほか(2)の栽培実証、利用実証を積極的に指導、援助し、転作々物としての位置付けを明確にすること。

以上八〇年代の日本農業が明るさのある展開をすることを念願して提言する。

昭和五十五年十一月十日
岡山県邑久郡長船町土師 牧野 勉

第五回岡山県サイレージ共励会開催

一月二十二日、倉敷市民会館において、約一五〇名が参加して、第五回岡山県サイレージ共励会が開催された。

今回の共励会は県下各振興局単位で出品された四〇点のサイレージ(気密サイロサイレージ二点、普通サイロサイレージ一九点)を対象として、岡山大学家畜飼養学教室において、有機酸組成、水分、を分析し、さらに、岡山大学・内田助教授、県酪農試験場・森専門研究員、県畜産課・奥主幹、県普及園芸課・田淵主幹、県畜産会・竹内次長により技術面(材料の水分、細切度、材料熟期、材料品質)について審査した。審査は材料品質点を一〇〇点、技術点を一〇〇点の合計二〇〇点満点とした。

今回の出品サイレージは昨年の冷夏長雨にたたられて、全般に材料が不良だったようである。

詳細は岡山畜産更り来月号に、内田先生の審査講評を掲載予定ですので、ご覧願いたい。

また当日は自給飼料増産利用研修会も開催され、雪印種苗(株)千葉研究農場長の

兼子達夫先生による「自給飼料の増産と利用について」と題した講演が行なわれた。

なお、授賞一八点に対して、県知事賞、県農林部長賞、中央畜産会長賞、大会々長賞が贈られた。上位入賞者名簿は次のとおりである。

入賞者目録

- (チャンピオン賞)
邑久郡長船町 長船町農協酪農部会
大麦 気密サイロ
- (ゴールテン賞)
気密サイロの部
真庭郡川上村 筒井 一
トワモロコシ
真庭郡久世町 馬場 修身
イタリアンライグラス
久米郡久米町 藤堂 正幸
トワモロコシ
普通サイロ
久米郡久米町 福島 康仁
トワモロコシ
後月郡芳井町 守田 泰三
トワモロコシ

原町の九山年子さんが、そして「牛ととも」と題して神郷町の佐々木栄本子さんが発表された。

昨日来の雪にもかかわらず、県下各地の和牛農家の方々が、多数会場につめかけ、各発表者の経営成果に、終始熱心に耳を傾けていた。

審査は、岡大・井上教授、和牛試験場逸見場長、県畜産課・馬場主幹の三名により、①経営内容の妥当性、②創意工夫

③経営成果、この三項を中心におこなわれた。

その結果、美甘村の山口静江さんが最優秀賞と決定し、津山市の本多磨智子さんが優秀賞の一席となった。

発表会に引き続いて、(株)全国肉用牛協会、事務理事、大川忠勇先生の「いよいよ和牛の出番です」と題する、和牛飼養農家にとっては心強い講演が行なわれました。

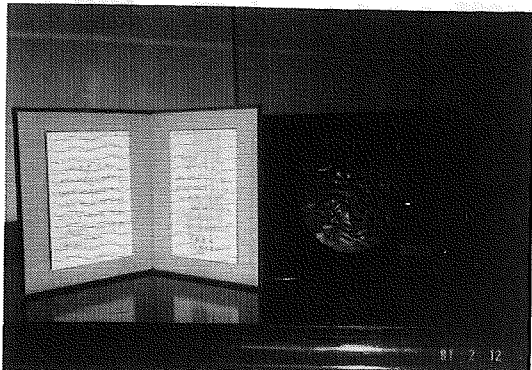
花尾会長山陽新聞賞受賞

社団法人岡山県畜産会会長は、去る一月十日山陽新聞社講堂で行われた第三九回山陽新聞賞、同体育賞の贈呈式で産業功労者として賞状・賞牌(日展作家、宮本隆氏作)を贈られ受賞の栄に輝いた。

この賞は、岡山・香川・広島・三県下の教育・文化・社会・学術・産業・体育などの分野で功労のあった個人や団体に山陽新聞社が毎年賞を贈っているもので、本年は山陽新聞賞十八人、同奨励賞一人、一団体が受賞した。

先生は、国又は県の多くの畜産団体の役職を勤めておられ、今回は、酪農の外本県の畜産全般に対する功績が高い評価をうけたものである。

一月二十四日、山佐別館で有志七六名による受賞記念祝賀会が催された。



第二回岡山県和牛繁殖経営婦人発表会開催される

去る一月六日、津山市、津山文化センターにおいて、県下の和牛飼養者三二〇名が参加して、第二回岡山県和牛繁殖経営婦人発表会が開催された。

本発表会は、県畜産会、経済連、肉畜価格安定基金協会、中央会、農業共済連



サイレージ共励会

肉用牛協会、和牛研究会の共催、岡山県津山市、全国和牛登録協会岡山県支部の後援によりおこなわれた。

当日は、「わが家の和牛繁殖経営」と題して津山市の本多磨智子さんが、また「里山を活かした肉用牛の繁殖経営」と題して美甘村の山口静江さんが、また、「牛のひとみに魅せられて」と題して大



和牛発表会

岡山県畜産史

申し込み受け付け中!

A5版 1314頁 定価 8,000円

概要

第1編 総論

- 第1章 旧藩までの畜産の概要
- 第2章 明治、大正年代における畜産の発達
- 第3章 昭和前期における畜産の推移
- 第4章 昭和戦後期における畜産の発達

本史は、1,500部の限定版で会員に頒布しましたが残部が150部ありますので予約価格でお頒布します。

第2編 各論

- 第1章 酪農の発達
- 第2章 和牛の変遷
- 第3章 養豚の進展
- 第4章 養鶏の発達
- 第5章 その他の家畜
- 第6章 牧野飼料作物ならびに流通飼料
- 第7章 家畜衛生

©申し込み先 岡山県畜産会 岡山市磨屋町9-18 農業会館内 TEL0862(22)8575

“あなたの畜産経営に奉仕します”

新発売飼料フレックフイード(乳牛、肉牛用)
配合飼料、コーンジャム(とうもろこし胚芽油粕)、脱脂大豆、菜種粕

加藤製油株式会社

大阪・岡山・名古屋・高松・下関

本社工場	大阪市此花区梅町2丁目1番16号	〒554	電話	大阪(06)462-0101
岡山工場	玉野市築港5963	〒706	電話	玉野(0863)31-2222
名古屋工場	名古屋市港区港陽1丁目1番82号	〒455	電話	名古屋(052)651-7411
高松工場	高松市郷東町宇乾新開792-10	〒760	電話	高松(0878)82-1888
下関営業所	下関市中之町10-3	〒751	電話	下関(0832)22-8141

飼料情勢

岡山県酪連

一九八一年も年明早々、配合飼料が値上げされるといふ、今年の飼料情勢も厳しい幕明けとなりました。
そこで、背景なり今後の見通しとして、需給状況、海上運賃、為替相場の三点からみてみると、

一、穀物需給状況

昨年十月米農務省の発表によると、全世界の穀物生産高は一、五四四百万トンと、前年度に比べ二・三・五百万トンの増加となっている。しかし世界の穀物需給は、ソ連の不作、中国の需要の旺盛、南半球、特に豪州の大減産等のため、需給の逼迫感が強まった。特に世界の穀物市場の六〇%を占めると言われる米国が、熱波の影響により大減産(表一)となり、輸送能力が極端に低下した。

一方需要の面は、中国では食糧不足から安定供給源として米国の求め、又、ソ連も生産目標二三五百万トンに対し、生産量一八〇百万トンと推定されており、不足分を海外に求めるため、穀物全体に及ぼす需給のタイト感は一層強まった。

そこでシカゴ定期相場の動きを追って

みると表二に示しているとおり、昨年七月の米国熱波の発生を契機とし、被害拡大につれて、又、ソ連の不作、南半球の不作が加わり、シカゴ定期は急騰をきわめ、十一月にはブッシェル当り四〇〇ドルを超すという、かつて昭和四十九年の大暴騰を凌ぐ記録的な高値をつけた。それを境に十二月以降、米国での金利の値上げ等のため、投機筋の売りが活発となり、次第に下降線をたどり現在三・七五ドル(二月)辺りで小康状態を保っている。今後の見通しとしては米国での一九八〇/八一年のトウモロコシ期末繰越在庫は(表二)六〇〇百万ブッシェル(前年比三八%)と極端に少なくなっており、今年の新穀の育成状況が注目されるところである。シカゴ定期相場も、投機筋の関係で一進一退があるうとも、全般的には強含みの推移が予想される。

二、海上運賃

ガルフー日本間の過去のフレイトについては、昭和五十四年の前半よりそれま

前年実績 83.8%
前年比 67.2
77.5

表1 ① 生産量(単位 百万ブッシェル)

	8月1日現在	10月1日現在	前年実績	前年比
とうもろこし	6,646	6,466	7,764	83.8%
イロ豆	553	547	814	67.2
マ大	1,880	1,757	2,268	77.5

② 期末在庫(単位 百万ブッシェル)

	8月1日現在	10月1日現在	前年実績	前年比
とうもろこし	983	600	1,597	37.6%
イロ豆	52	51	116	44.9
マ大	300	165	359	46

盛さらに、ソ連の穀物不足による輸入の急増等が考えられるが、現在では一時の高値の反動で若干水準を引き下げ、二七ハドルで推移している。今後の見通しとしては強材料として、燃料の値上げ、代替エネルギーの石炭の需要増、ソ連の穀物不作による輸入量の増大、米国の景気低迷からくる輸出量減に伴う復航船舶の減少等、又、弱材料として、景気後退による世界貿易量の減少等が考えられるが、総合的にみて早期軟化の期待は難かしい状況である。

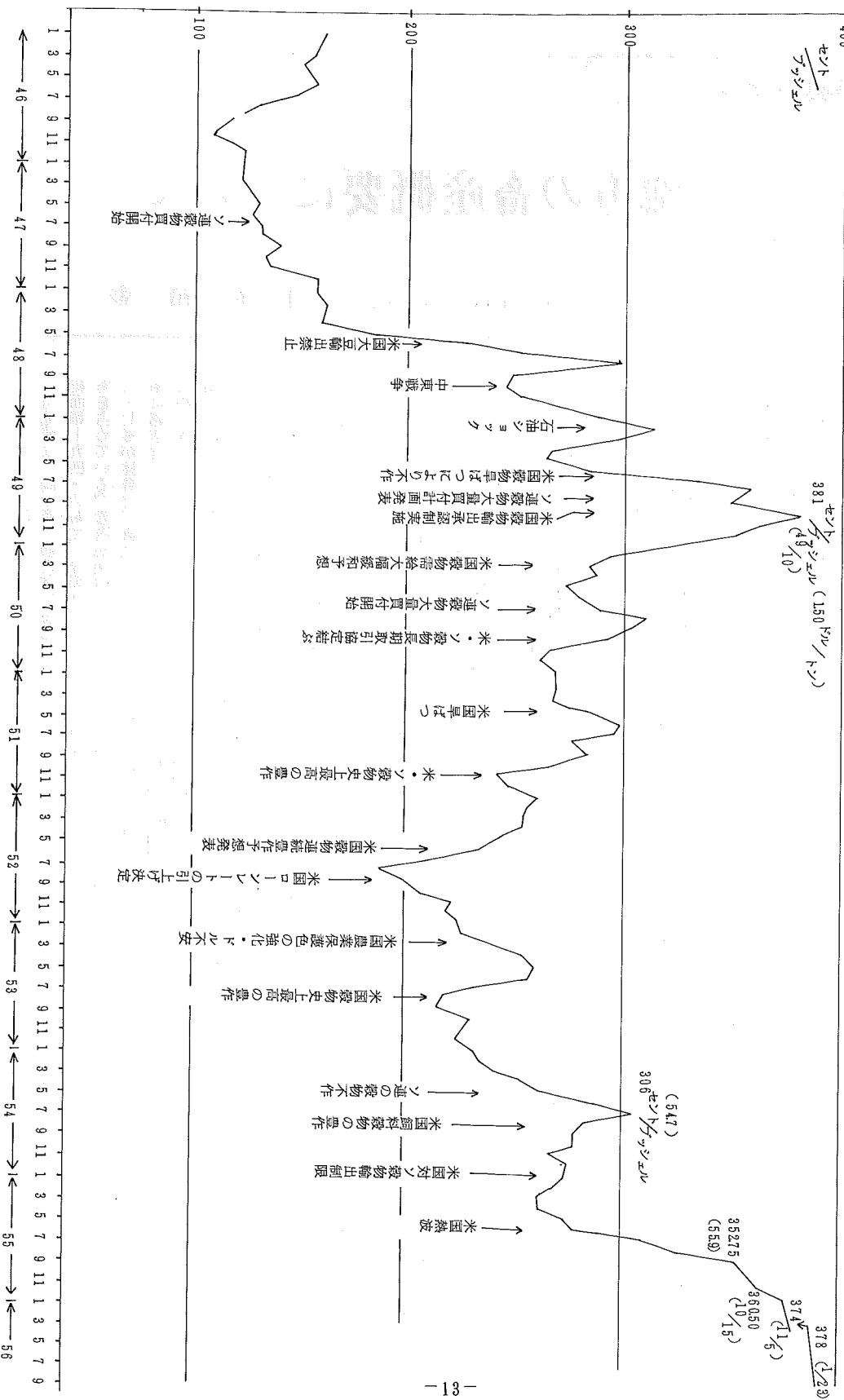
三、為替相場

円相場の動向は昭和四十八年の変動相場制へ移行して以来激しい上下を繰り返してきたが、昭和五十三年十月の平均一ドル一八四円の高値を頂上に次第に円安となり、五十五年四月二五・一円となり、更に五十六年一月六日には一九四円という高値になるように非常な乱高下をたどっている。この様な状況下で今後の動きを探ることは非常に困難であるが、考えられる要因としては、日本の貿易収支、中東のイラン、イラク戦争に伴う石油情勢、ポージランド問題、レーガン大統領の新経済政策等、強弱両材料が含まれるが、何れにしても楽観は許されない状況である。

以上三点から考えてみて今年の飼料情勢は一時的には軟化もみられようが全般的にはやはり厳しいものとなる。

とうもろこしのシカゴ市況

(期近物月平均)



阿新地方の畜産概要について

阿新地方振興局 貝原裕彰

当地域は、岡山県の西北部に位置し、総面積七九四・六^〇で、全県の一一・二^〇を占めている。管内総面積のうち、八六・七^〇が林野で、耕地はわずかに五・九^〇に過ぎない。これは県平均の一三・七^〇を大きく下まわっている。しかも、地勢は中国山地に属し、急峻で溪谷が多く、地域内の中央を南に流れる高梁川本流とその支流に添って狭少な耕地が展開して主に、水稲作が主体をなしているほか、南部のカラスト台地が展開した畑作地帯及び荒戸台地が分布している。

一、農業の概況

管内において昭和五十三年の農業粗生産額は、七七億六、〇〇〇万円と県内の三・九^〇を占め、この内畜産粗生産額は二四億三、四〇〇万円と三・四^〇であり米麦の三〇億八、二〇〇万円の三九・七^〇に次ぐ生産高を占めている。次いで工業作物の一四・四^〇、一一億一、〇〇〇万円の順である。

一般的には県北の積雪寒冷地帯で、山間へき地が多いため農業の経営規模は零細である。北部地域は、水稲、肉用牛、山林の複合経営であるが、大佐町、神郷町には僅かながら酪農が営まれている。中部地域は、水稲、肉用牛の農家が多く哲多町では商系資本によるプロイラー飼育農家がある。南部は、標高四〇〇〜五〇〇mに拓けた石灰岩を母岩とするカラスト台地の畑作地帯で、タバコ、野菜

(メロン、トマト)、桃を中心に産地化が進んでいる。この地域は畑地かんがい計画されており、果樹、野菜の産地として今後期待されている。

二、畜産の概況

(一) 乳用牛

昭和四十五年の飼育状況は第一表に示すとおり、六七戸、四一四頭であり、昭和五十五年には二九戸、四六〇頭と戸数は減少しているが、頭数は増加し一戸当たりの飼養規模の拡大がみられる。

とくに大佐町においては、酪農近代化計画の樹立により計画的に増頭計画が実施され、効果を上げており、戸数で管内の六三^〇、頭数で五七^〇を占めている。

現在経産牛一頭当り乳量は、昭和四十五年より約一・五倍の伸びを示し、それに伴ない管内全体の生乳生産量も大巾な伸びとなっている。生乳生産量は県全体からみた場合一多にすぎないが、今後乳牛のとう次すなわち高能力牛の確保による生産性の向上と水田利用再編対策による飼料作物の定着化と有効利用により酪農経営の安定を図る必要がある。

(二) 肉用牛

昭和五十五年の飼養戸数は、二、六五二戸であり、昭和四十五年の四、三六〇戸に比べて六〇・八^〇と大巾な減少を示している。又、飼養頭数においても一〇、四五〇頭から七、五一五頭と七一・九^〇に減少している。

肉用牛の一戸当たりの飼養規模は、第一表に示すとおり二・四〇頭から二・八三頭とわずかながら拡大が行なわれているが、経営規模は零細で水稲、山林、野菜、果樹等との複合経営が行なわれている。

今後増頭を図るには、山林を利用した放牧経営と農家一頭飼いの復活、及び五〜六頭規模農家の育成が必要である。

現在管内の分娩率は六三^〇台に低迷しているが、今後二年一産を取りもどすために飼育管理の適正化、人工授精技術の向上等の必要がある。

肥育牛は、新見市、大佐町、哲多町に大規模肥育経営を目指して肉用牛集約生産基地育成事業等により施設整備が順次なされつつあり、肉用牛の生産地帯から地域内一貫経営へと一歩前進した経営形態に変わりつつある。今後肥育農家の育成を図り繁殖牛飼育農家が安心して素畜供給ができるようにすることも振興上必要な要件と考えられる。

(三) 豚

養豚については全く白紙と云ってよい状況の地域であったが地域産業の多様化と、生産性の高い、しかも資金の回転が早い家畜を導入することにより地域産業の発展を期待して振興を図りつつある。昭和五十四年度と五十五年度において繁殖豚二〇〇頭を導入する運びとなった。阿新地方で養豚事業を実施することは畜産経営に大きな転機をきたしたことに

第1表 飼養戸数及び飼養頭数の推移

年次	飼養戸数		飼育頭数		一戸当り飼養頭数
	戸数	頭数	戸数	頭数	
乳用牛	45年	67	414	3.2	
	50年	34	400	11.8	
	55年	29	460	15.9	
	55/45	43.3	111.1	496.9	
肉用牛	45年	4,360	10,450	2.40	
	50年	2,898	7,984	2.75	
	55年	2,652	7,515	2.83	
	55/45	60.8	71.9	118.0	
豚	45年	8	91	11.4	
	50年	4	116	39.0	
	55年	5	286	57.2	
	55/45	62.5	314.1	501.8	
採卵鶏	45年	2,325	8,426	3.62	
	50年	1,295	7,716	6.00	
	55年	545	9,705	17.81	
	55/45	23.4	115.2	492.0	
プロイラー	45年	2	400	200	
	50年	1	12,000	12,000	
	55年	7	41,630	59,471	
	55/45	35.0	1,040.8	297.4	

資料：農林省「畜産基本調査」「畜産課調」

なる。今後、地域の特性を生かした地域内一貫経営体制による養豚振興が必要であり、産地形成を目指して普及啓蒙に努めつつある。

四 採卵鶏

飼養戸数は第一表のとおり昭和四十五年から現在まで二三・四^〇に減少している。又、飼養頭数は昭和四十五年の八四、二六羽から昭和五十五年には九七、〇五〇羽と一一・五・二^〇の増加であるが鶏卵の生産調整が昭和四十九年から行なわれ、成鶏めす羽数の凍結が行なわれている。

るので羽数の増加は見込まれない。飼養規模別羽数は昭和四十五年には一、二九九羽規模が全体の八九^〇を占めていたが、昭和五十五年には一、〇〇〇羽以上の農家が全体の六四^〇を占めるものの農業の複合経営要素が強い。飼育農家数は多いが、規模の大きい主産地は哲西町である。

(四) プロイラー

昭和四十五年の飼育状況は三戸で四〇〇羽であったが、昭和五十五年には、七戸、四一六、三〇〇羽と大巾な伸びを示

している。これは昭和五十三年に哲多町において商系資本によるプロイラー飼育農家が六戸できたことによるものである。なお、昭和五十五年二月一日現在の管内の市町別家畜飼養頭数は第二表のとおりである。

おわりに

今後、畜産経営において自立農家の育成、後継者対策及び経営の安定化を図り地域産業としての発展を期待するものである。

第2表

(55. 2. 1 現在家畜基本調査)

	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		プロイラー	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数	戸数	羽数
新見市	1,183	3,233	1	72	3	39	433	41,000	1	26,200
大佐町	327	979	18	267	0	0	12	50	0	0
神郷町	321	797	6	68	2	247	76	8,000	0	0
哲西町	354	851	4	53	0	0	9	18,000	0	0
哲多町	467	1,655	0	0	0	0	15	30,000	6	390,100
合計	2,652	7,515	29	460	5	286	545	97,050	7	416,300

オリオン ローラインミルクカー

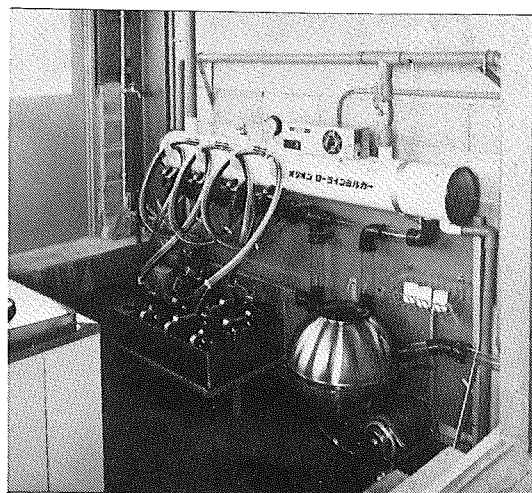
ORION

ローラインだけが成しえる低真空圧搾乳

PML-51S-A型

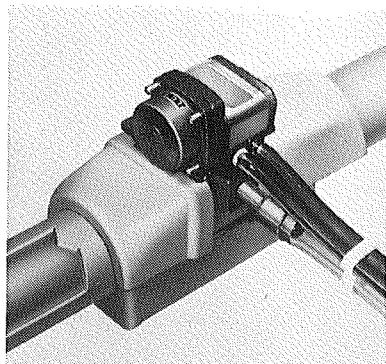
三大特長

1. 安全な搾乳真空圧 31.5cmHg
2. 安定した搾乳真空圧
3. 二重構造のワンラインパイプ方式 (特許出願中)



◀処理パネル

▼ミルクタップ



オリオン機械株式会社

営業本部 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目25-5 TEL (03) 341-5811
 本社・工場 長野県須坂市大字幸高246 TEL (02624)5-1230
 岡山営業所 岡山市清輝橋3-2-8 TEL (0862)26-0136

酪農畜産機器 総合商社



株式会社 小六

本社 岡山市福成2-14-23 (0862) 63-1221(代)
 落合営業所 真庭郡落合町上市瀬165-2 (08675) 2-3364
 金川営業所 御津郡御津町金川337 (08672) 4-0143
 津山営業所 津山市志戸部712 (08682) 2-1561

私の趣味

ブルーグラスと私

和牛試験場 研究員 山本 洋

一昨年の夏のことでした。山陰の小さな漁港の近くにある民宿に一泊した時のことです。宿の奥の方から、何か聞いたことのあるような音楽が聞こえてきました。土地の民謡かなあと思って近づいてみると、何とブルーグラスではありませんか。都会の大学のブルーグラスバンドが夏休みを利用して合宿練習しているものでしたが、こんな田舎にまで来てブルーグラスを聞こうとは夢にも思っていなかっただけに、驚きと共に、私にはそれが民謡に聞こえたことが嬉しく思われました。何故なら、使い古されたきさな言葉で恐縮ですが、「民謡は世界をつなぐ心のかけ橋」と云われ、広く世界の人々に親しまれています。ブルーグラスはそのアメリカ民謡の一つだからです。アメリカ民謡がポピュラー音楽化したブルーグラスですから、その民謡の持つ共通の何かが土地の民謡に聞こえさせたのだと思います。

でしようか。そうなんです。アメリカ南東部山岳地帯の木樵や農民、現代風に云えば農林業を営んでいた人達が、一日の疲れを癒すために歌っていたのがこの音楽の始まりです。この音楽をケンタッキー州(別名ブルーグラスステートと呼ばれ、一面ブルーグラスが咲き誇る)の生みの親、ブルーグラスがおい繁つて五年頃、彼の仲間達とより近代的な音楽へと完成させ、故郷に因んでつけたバンド名からブルーグラスと呼ばれるようになりました。

私もブルーグラスとはかれこれ二十数年の付き合いとなり、友人からこの音楽のどこがいいのかとよく聞かれます。一般にウエスタン音楽と総称して、第一に単純・素朴、第二に悲哀、第三に誠実な音楽と云われています。私もこの第一の単純・素朴な所が好きになった由縁だと思います。リズムも二拍子と三拍子、コードも三つか四つで、楽器編成も小さく、ギター、フィドル(バイオリンのこと)、バンジョー、マンドリンなど民俗楽器が主体です。しかし、ただ単に、単純・素朴さだけで云うのなら、他にも音楽はあるでしょう。この単純・素朴さに加えて土の香り、私達は「泥臭い」と云っていますが、この泥臭さこそが、一度好きになったらこの音楽から抜け出せない理由ではないでしょうか。

最近日本は経済大国となり、海外への進出企業も多くなって、現地をよくその国を知らないためのトラブルを起こしている事を新聞等で見かけます。そんな時私は、その国にはその国の民謡があり、民謡を知ることによって、その国への理解も早まり、外国の人とのつきあひも随分違って来るのではないかと、いつも思っています。

さて、話が横にそれましたが、ビル・モンローとブルーグラスボーイズは、昭和五十二年、秋、第三回目の来日をしました。演奏会を聞くことは出来なかったのですが、民放のテレビ放送でその姿をみる事が出来ました。ビル・モンローは、六七才とは思えないはつらつとした姿で、彼のヒット曲である、アンクルペン・ロー・ハイド等をトレードマークでもあるハイロンサムサウンドに合わせ、火の出るようなジャズがかったマンドリンソロを聞かせてくれました。最後に、日本人歌手として、森山良子さんが、セイクレッドソングの代表作、アイソザライトと一緒に歌いました。しかし、彼女としては、いつもより早いテンポで彼女なりに一生懸命歌ってはいましたが、私の耳に

はやはり日本人の歌うブルーグラスにしか聞かれません。子供の頃から歌い続け、ブルーグラスの父と云われる彼らの作り出す音楽は、やはりそんなに安っぽい音楽ではないことをあらためて認識させられた演奏でした。

テレビのコーナーで「スカットさわやか……」と云うのがありますが、現代のこの難しい複雑な時代に、一種の清涼飲料水の役割をする何か人間には必要ではないでしょうか。私は、それをこの音楽に求めています。

岡山畜産便り (二月号)
 第三巻 第二号
 (通巻第三四号)
 昭和五十六年二月二十五日
 発行人 花屋 省治
 編集人 竹原 宏
 発行所 岡山市磨屋町九一八
 岡山県農業会館内
 岡山 県 畜産会
 電話・岡山 八五七五番
 振替・岡山 八五七五番
 岡山市丸の内一丁目一
 ふじや高速印刷所
 電話・岡山 四九五一番
 一部一八〇円(送料共)
 定価